

方言コーパスに見るモダリティ形式のバリエーション

木部暢子（国立国語研究所）

1. 概要

この発表では、モダリティのうち推量を表す形式の地理的バリエーションを取り上げる。

方言には昔の中央語（古典語）が残ることがしばしばあるが、推量表現にもこのことが当てはまる。まず、古典語と現代標準語の推量表現を比較してみると、古典語では「む・むず・らむ・けむ・まし・らし・めり・なり（終止形接続）・べし・べらなり」などの推量の助動詞が使われ、現代標準語では「だろう・らしい・ようだ・そうだ・はずだ・のではないか・にちがいない・かもしれない」などの推量表現が使われている。一見して、語形式がかなりちがっているのが分かる。どうやら、現代標準語は古典語の推量の助動詞を受け継ぐことをせず、断定の「だ」や判定を表す語を中心として推量表現を新たに構築していったようである。

一方、方言では古典語の推量の助動詞「む」「むず」「べし」などが継承され、使われている。また、同時に新しく形成された「だろう」も使用されている。このような方言の推量表現の世界を、現在、国立国語研究所で構築中の『日本語諸方言コーパス』(Corpus of Japanese Dialects, COJADS) を使って垣間見ることにしよう。取り上げるのは主として、九州で使われるウ（<む）、ツロー（<つらむ）、ゴタル（<ごとくある）、東北で使用されるベー（<べし）などである。

2. 『方言文法全国地図』にみる推量表現



図1 国立国語研究所(2002)
『方言文法全国地図』第5集 237 図
「行くだろう」

3. COJADS にみる推量表現

北九州市方言「タヤロ・タロ・ツロ」

	ツロー	タロー	タヤロー
ヨル 男	シヨツツロニ (A男)		イーヨツタ立ロ (A男)
存在詞 男	アツツロニ (B男)		
copula 男	タノシミジャツツロニ (A男) ソーヤツツロニ (B男) クローヤツツロニ (B男) グライヤツツロニ (B男)		シジュークヤツタヤロニ (B男)

	ツロー	タロー	タヤロー
ヨル 女		イキヨツタロニ (C女) アリヨツタロニ (D女)	
存在詞 女			アツタヤロニ (D女)
copula 女			

変化の過程：

ツロー > タロー > タヤロー 男 ツロー > タヤロー
 女 タロー > タヤロー

15

図2 北九州市方言の推量過去の変遷